



- ①インターン開始時に、役場庁舎に来庁し、畑中村長に質問をする二ツ森さん㊦と千條さん㊦
- ②東通中学校で行われた防災講義の際、地図を一緒に確認する千條さん㊦と二ツ森さん㊦
- ③インターンシップの成果報告会で講評を受ける千條さん㊦と二ツ森さん㊦



『インターンに参加して どんな成果を得ましたか?』

村内企業の『共育型インターンシップ』と呼ばれる『企業と学生が共に学ぶインターンシップ』に参加しました。

春と夏に大学生を受け入れており、二人は11期生となります。

二人はイベントの企画運営等をメインに1ヶ月間に亘り学びました。

二人は活動するにあたり『若者に影響力のある方を東通村に呼び込むイベントを企画する』という課題が与えられ、青森県内で絶景カメラマンとして活動している“対馬慎太郎氏”を講師に招き『北部海岸での写真撮影会』を企画・開催しました。

撮影会は、新型コロナウイルス感染症を考慮し、対面での参加者は村内在住者に限定し、イベント当日に抗原検査を実施、村外の方はオンラインでの参加に限定するなど対面とオンラインを組み合わせた『ハイブリット型』にしました。

写真撮影当日は、快晴のなかで行われ、対面では10名、オンラインでは3名の計13名が参加しました。

9月21日、インターンシップ最終

日に二人による成果報告会が行われ、スクリーンなどを使い、成果を報告しました。

この日の報告会では、コロナ禍におけるイベント実施の難点や改善点を考察し説明しました。

また、報告会参加者からは「1ヶ月での自身の成長はどのようなところか?」という質問に、二ツ森さんは「柔軟な考え方や多角的な視点で物事を考えられるようになった」、千條さんは「物事をそのまま受け入れるのではなく、違った視点で見ることができるようになった」と1ヶ月間での自身の成長を語りました。

『将来の夢を教えてください』

二ツ森 「私は、人を支えられる人“縁の下”の力持ち”になりたいです。このインターンで沢山の人の人と関わり、人と関わる仕事に就きたいという思いが強くなりました」

千條 「人に寄り添って仕事をしたいです。将来は地元で公務員になるために、このインターンで培ったことを役立たせたいと思います」

二ツ森さん、千條さん、夢に向かって頑張ってください!